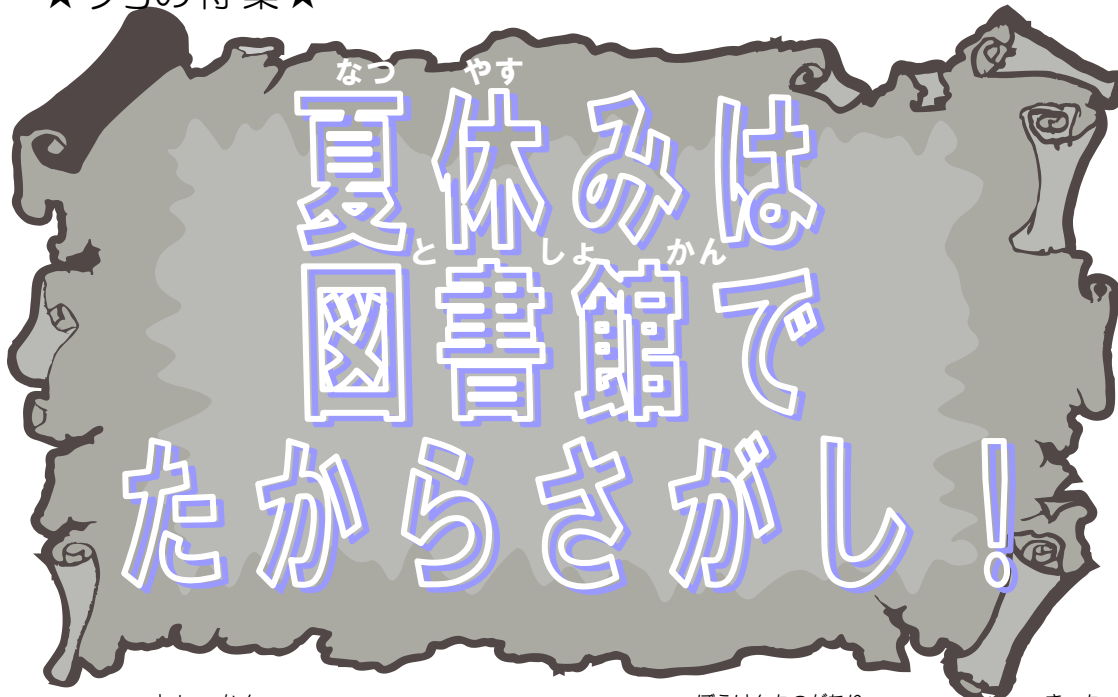


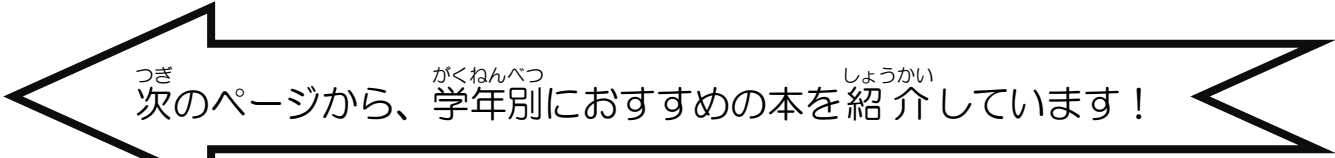
★今号の特集★



た
ん
た
新
聞

たんた新聞編集部
〒270-1147
我孫子市若松26-4
我孫子市民図書館
TEL04-7184-1110

図書館には、わくわくドキドキの冒険物語、やさしい気持ちに
なれるおはなし、思わずわらっちゃう変なおはなし、
へー！っとびっくり知識の本など、たくさん本があります。
君にぴったりの1冊をさがしに、図書館に行ってみよう！

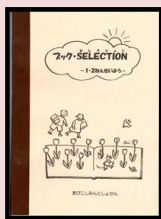


もっと読みたい人には、
『ブックセレクション』。

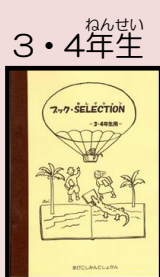
この新聞のほかにもおススメの本をたくさん紹介しています。

ブックセレクションは

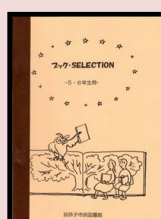
- ・図書館でもらえます。
- ・図書館ホームページで見られます。



1・2ねんせい



3・4ねんせい



5・6年生

夏休みの宿題に役立つ自由研究・工作などの本をまとめてならべています。

アビスタ本館

湖北台分館

布佐分館

の

児童書コーナーをみてみてね。

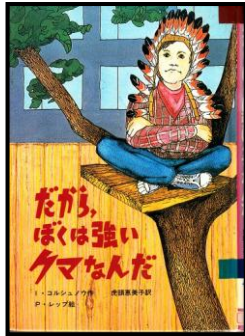


わからないときは
図書館の人にきいてみよう！

2 ねんせいにおすすめ

「だから、ぼくは強いクマなんだ」

イリーナ・コルシュノウ／作
虎頭恵美子／訳
ペーター・レップ／絵
大日本図書 (2-コ)



ぼくはマルティン、もうじき9才。インディアンごっこで、ともだちはぼくのことを“ちび”ってよぶけれど、本当は“強いクマ”なんだ。だから、山登りに出かけた時、けがをしたお父さんを助けるために、ひとりで下山することにしたんだ。



「ヘムロック山のくま」

アリス・デルグレーシュ／作
松岡享子 藤森和子／共訳
太田大八／画
福音館書店(2-エ)

ヘムロック山のふもとに住むジョナサンが、たったひとりで

山ごえをしたのは8才の冬のことでした。親せきがたくさん来るので大きなおなべが必要になり、山の向こうに住むエマお婆さんの家におなべをかりに行くことになったからです。ヘムロック山にはクマが住んでいるというのですが…。

「ポケットのたからもの」

(リブリオ出版 2-コ)

「ぼくのわたしのすいぞくかん」

(福音館書店 EMカ)

「フルリーナと山の鳥」

(岩波書店 EAカ)

「なぞなぞあそびうた」

(のら書店 911カ)

「おばあさんのひこうき」

(小峰書店 1-サ)

「おっとあぶない」

(フェリシモ 2-リ)

「おっこちゃんたんたんうさぎ」

(福音館書店 1-7)

「あたまをつかった小さなおばあさん」

(福音館書店 2-ニ)

1 ねんせいにおすすめ

「ワニのライルがやってきた」

(大日本図書)

EAウ)

「ペレのあたらしいふく」

(福音館書店)

EAベ)

「ふらいばんじいさん」

(あかね書房)

1-カ)

「ふたりはともだち」

(文化出版局)

EAロ)

「スーホの白い馬」

(福音館書店)

EAア・MEAア)

「サリーのこけももつみ」

(岩波書店)

EAマ)

「こねこのぴっち」

(岩波書店)

EAフ)

「車のいろは空のいろ」

(ポプラ社)

1-ア)



「ろくべえまってるよ」

灰谷 健次郎／作 長新太／絵
文研出版 (EAチ)

いぬのろくべえがあなにおっこちてしまいました。おとなはだれもたすけてくれません。あなのそこからは、ろくべえのころぼそそうなきごえがきこえてきます。こどもたちは、どうやってろくべえをたすけるのでしょうか？

「ぼくのつくえはぼくのくに」

佐藤 さとる／作 村上勉／え
学研教育出版 (1-サ)

かおるが、みどりのまほうのはねでつくえをなでると、へやがぐーんとひろがってうみになってしまいます。そしてえんぴつピエロのあんないで、つくえにすみついたゴチャゴチャむしをやっつけることになるのですが…。



「ロッタちゃんのひっこし」

アストリッド・リンドグレン／作
イロン＝ヴィーグランド／絵
山室静／訳 偕成社 (2-リ)

ロッタは5さいのおんなの子。あるあさ、いやなゆめをみてぷりぷりして目をさました。ママとけんかしてセーターをきり、ぬいぐるみをつれて となりのものおきにひっこしてしまいました。そして…。

4年生におすすめ



「長くつ下のピッピ」

アストリッド・リンダグレン／文
桜井誠／さし絵
大塚勇三／訳
岩波書店（2-リ）

ピッピは、元気で世界一強い女の子。学校にも行かず、いつも何かをまき起こしています。

いじめっ子男子5人を一人でやつつしたり、火事
のなか、男の子を助けたり。今日もまた何か事
けんが起こりそうです！

「みどりのゆび」

モーリス・ドリュオン／作
ジャクリーヌ・デュエーム／絵
安東次男／訳
岩波書店（2-D）



チト少年は、さわると何にでも花がさく「みどりのゆび」をもっています。このゆびで、けいむ所
やびょういん、戦場のたいぼうにも花をさかせて、戦
そうをやめさせてしまいます。そんなチトはほんとうは…。

3年生におすすめ

「いっぽんの鉛筆のむこうに」	（福音館書店）	EMタ
「大どろぼうホッペンプロッペン」	（偕成社）	2-ブ
「かぎのない箱」	（岩波書店）	2-オ・M2-オ
「じいくのそうべえ」	（童心社）	EAタ
「ふしぎな500のぼうし」	（偕成社）	EAド
「ぼくは王さま」	（理論社）	1-テ
「みしのたかくにと」	（こぐま社）	1-マ
「ミリー・モリー・マンデーのおはなし」	（福音館書店）	2-ブ

「イギリスとアイルランドの昔話」

J・D・バトン／画 石井桃子／編・訳
福音館書店（2-イ、M2-イ）



ある晩、おさんばのばあさんは、やぶにらみの男に赤ん坊の目にぬりぐすりをぬるようにたのまれます。ばあさんは不思議に思い、自分のまぶたにそのくすりをぬってみますが、そこに見えたものは…。

この「妖精のぬりぐすり」のほか、「三びきのこぶた」、「ジャックとマメの木」、こわいお話「元気な仕立て屋」などのお話が入っています。

「わたしの妹は耳がきこえません」

ジーン=W=ピーターソン／作
デボラ=レイ／絵
土井美代子／訳
偕成社（EAL）

これは耳の聞こえない妹のいるおねえさんが書いた本です。

姉：「耳が聞こえないって、耳がいたいのか？」

妹：「ううん。でもむねがいたくなるの。自分の気持ちをわかってもらえない時にね。」

妹の生活のようす、わたしがどういふふうにして妹に話しかけるかなどが、よくわかります。



「エイプリルと子ねこ」	（ジー・シー）	EAニ
「小さい魔女」	（学研）	2-ブ
「どうくつをたんけんする」	（福音館書店）	EMタ
「ながいながいペンギンの話」	（理論社）	1-イ
「ひとりっ子エレンと親友」	（学研）	2-ク
「魔女学校の一年生」	（評論社）	2-マ
「魔女ジェニファとわたし」	（岩波書店）	2-カ
「ふしぎの森のミンペン」	（評論社）	EAへ

6年生におすすめ



「ロシアの昔話」

タチャーナ・マブリナ／画
内田莉莎子／編訳
福音館書店（2-口, M2-口）

「おおきなかぶ」などロシアの昔話が33話入っています。その中に「どこかしらんが、そこへいけ、なにかしらんが、それをもってこい！」という変わった題のお話があります。狩人には美しい妻がいます。王様はその妻を自分のものにしたくて、狩人を殺そうと無理な事ばかり言いつけます。妻は夫を救おうと知恵を出しますが…。



「砂漠の虫の水さがし」

山口進／写真・文
福音館書店（EMタ）

昼はやけるような暑さ、夜はこごえるような寒さの砂漠。ここに住む動物や虫は、生きるために欠かせない水を得るため、さまざまな工夫をしています。

例えば、サバクコオロギは昼間から夜への気温が下がる時のわずかな水分を体に受けて水分を補います。砂漠と上手に付き合いながら暮らす虫たちの一生懸命なすがたを写真で紹介します。

「わらしべ長者」

「床下の小人たち」

「冒険者たち」

「人形の家」

「チョコレート工場の秘密」

「子どもべやのおぼけ」

「風と木の歌」

「赤毛のアン」

(岩波書店)

(岩波書店)

(岩波書店)

(岩波書店)

(評論社)

(徳間書店)

(実業之日本社・借成社)

(講談社)

1-キ
M1-キ

2-ノ

1-サ

2-ゴ

2-ダ

2-ゼ

1-ア

2-モ

5年生におすすめ

「ふたりのロツテ」

「ハンカチの上の花畑」

「八郎」

「たのしいムーミン一家」

「せいめいのれきし」

「キャプテンはつらいぜ」

「がんばれヘンリーくん」

「お江戸の百太郎」

(岩波書店)

(あかね書房)

(福音館書店)

(講談社)

(岩波書店)

(講談社)

(学研)

(岩崎書店)

2-ケ

1-ア

EA
タ

2-ヤ

EM
バ

1-ゴ

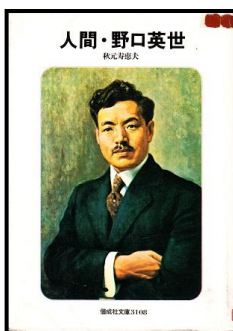
2-ク

1-ナ

「思い出のマーニー 上・下」

ジョン・ロビンソン／作
ペギー・フォートナム／絵
松野正子／訳
岩波書店（2-口）

家族を亡くし、養い親とロンドンで暮らすアンナは、田舎にあずけられることに。そこで、同じ年くらいの不思議な女の子マーニーと出会い、仲良くなります。ところがある日、マーニーはアンナを置き去りにして姿を消してしまうのです。



「人間 野口英世」

のぐちひでよ
秋元寿恵夫／作
借成社（289-ノ）

野口英世という人を知っていますか？有名な博士だけど、その研究内容や業績はあまり正確には知られていないのではないのでしょうか。どんな生き方をしたのかぜひ読んでみよう！

へんしゅうこうき

あつすぎたり、あそびや勉強のしすぎで頭がつかれたときは、絵本をぼーっとながめるのがおすすめ。たとえば『漂流物』（デイヴィッド・ウィズナー／作 B.L出版）文字のない、ふしぎな海のおはなしです。

